

# 目 次

## I はじめに

名古屋国語教育研究会会長 竹内義信

## II 研究報告

### 1 話すこと・聞くこと

田代小	望月 健太郎	1
山吹小	山路 拓真	3
比良小	山本 真佑	5
中小田井小	岡田 拓未	7
牧野小	水原 悠輔	9
村雲小	小塚 達也	11
高田小	藤崎 裕子	13
井戸田小	瀨瀨 祐輝	15
守山小	大澤 佳枝	17
有松小	長坂 耕司	19
植田南小	畠山 美砂	21
日比野中	伊藤 光輝	23
昭和橋中	佐藤 利治	25
南陽中	奥原 章子	27
楠西小	厚東 彩	29
辻小	近藤 雄介	31
千年小	佐藤 和輝	33
大宝小	大野 貴子	35
西前田小	千葉 泰弘	37
稲永小	都築 潤矢	39
道徳小	児高 晋也	41
宝小	川瀬 賢太郎	43
桶狭間小	横江 陽紀	45
桃山小	和田 征久	47
南陵小	本多 裕太郎	49
西山小	門田 明久	51

### 3 読むこと（小学校）

明倫小	魚崎 祥奈	53
諏訪小	高取 拓三	55
柳小	谷田 有輝	57
日吉小	奥出 卓巳	59
鶴舞小	兼平 康成	61
村雲小	山本 貴紀	63
汐路小	舘 純子	65
豊岡小	伊藤 隆	67
中根小	吉田 裕幸	69
大宝小	西山 真奈	71
大宝小	西脇 陽介	73
篠原小	小関 将平	75
千音寺小	倉知 なつき	77
明治小	与那覇 大規	79
大生小	西脇 僚	81
守山小	水野 朝陽	83
志段味東小	海田 修佑	85
吉根小	吉川 銀士朗	87
浦里小	浅野 由莉	89
西山小	川出 祐樹	91
西山小	富田 英輔	93
名東小	川嶋 大介	95
原小	富田 崇裕	97

### 4 読むこと（中学校）

城山中	原田 三咲	99
若水中	上條 貴史	101
山田東中	清本 直樹	103
笈瀬中	竹内 旭	105
山王中	河村 仁美	107
大江中	酒徳 有衣	109
森孝中	帯金 徹	111

### 5 言語

八社小	大河内 綾奈	113
東丘小	横井 麻乃	115

### 6 書写

沢上中	小川 拓海	117
-----	-------	-----

## III あとがき（編集委員名簿）

## 人と人の心を結ぶことばの担い手を育む

名古屋国語教育研究会会長  
竹内 義信

ことばを大切に楽しく読む。これが、国語科で文学作品を取り上げる際の大前提です。ことば一つ一つが、どれほど豊かで感情に根ざしたものであるか。そうしたことばによって掻きたてられた想像力によって描いた虚構の世界が、どれほど豊かで広やかなものであるか。そこに描かれた虚構の世界を一視点人物として生きることが、どれほど楽しく意味のあることか。こうしたことばの調べを一人ひとりに体験させるような読むことの授業がしたい。そんな思いで、今日まで38年間、走ってきました。

私事で恐縮ですが、兵庫教育大学に通うようになって2年目、忘れることのできない出来事がありました。夏の日、娘が、「はやく、いちねんせいになりたいなあ」と言いに来ました。私は、買ってもらったばかりのランドセルを早く背負って学校に行きたいのだろうか。それとも、いつもけんかばかりしている兄だけど、やっぱり一緒に学校に行くのが楽しみなのだろうか。それとも、勉強を楽しみにしているのだろうか。そんなことを考えながら、「どうして?」と聞き返しました。すると、「だって、パパがひょうご(兵庫)にいかなくなるもん」と、思ってもみない答えが返ってきました。いつもは、「パパなんていなくてもへいき。だってママがいるもん」、そんな憎まれ口をたたき、電話をしてもたまにしか代わらない娘だけに、そのことばは、とても意外でした。何より、「はやくいちねんせいになりたい」理由が、「パパがひょうごにいかなくなる」からというのは、あまりにも論理に飛躍とひずみがあります。しかも、娘がそのような気持ちでいたことに、私は全く気付いていませんでした。娘がそう思ってくれたことをうれしく思う反面、自分の身勝手にそのような思いをさせていたことを知り、申し訳ない気持ちで一杯になりました。このように、発信者の思いが凝縮されたことばは、時として、受信者に計り知れない衝撃を与えるものです。

かつて、大学紛争は、「世紀の断絶」ということばを生みました。それはとりもなおさず、ことばによる世代間のディスコミュニケーションでした。ことばがことばを飾り、ことばの綾が上辺をかいた。人の言葉尻を捉えることが多くなり、他人に対することばが尖るようになると、人はことばを濁すようになる。人と人の心を結ぶはずのことばが、人を疎外し、ことばの担い手である人の心を離れて一人歩きを始めたのです。「ポスト真実」の時代と言われる今も、また同じように、「ことばによる異なる立場との断絶」が起きているのではないかと危惧してなりません。

さて、今年度も大勢の先生方の研究をこの冊子に集録することができました。しかし、残念ながら緊急事態宣言再発令下、研究発表会は中止せざるを得ませんでした。学習会に参加してくださった皆さんには、大変申し訳なく思っています。ただ、こうした中、地道に実践をし続け、こうして成果と課題をまとめあげた皆さんの功績は、コロナ禍にあっても、成長という歩みを止めることのない子どもたちの最大の理解者として称賛に値します。これからも引き続き、名古屋の子どもたちの生きる力となり得る「未来に生きることばの力」を育むために、ご尽力ください。皆さんのますますのご活躍を心から祈念いたします。

最後に、研究発表会は開催できませんでしたが、名古屋市教育会のご後援をいただき、本事業を終えることができましたことに対し、心からの謝意を表します。